

稲荷川洪水ハザードマップ

～浸水被害に備えて～

この稲荷川洪水ハザードマップは、平成23年3月に鹿児島県が指定した稲荷川浸水想定区域をもとに、市民の皆様が浸水被害の危険性を事前に把握し、災害への備えや緊急時の速やかな避難に役立てていただくために作成したものです。

日頃から、家庭で避難時の行動を話し合い、雨の降り方や河川の水位に注意して早めの避難を心がけましょう。

浸水想定水深の色の見方

区分	浸水の目安
5m以上	2階の軒下まで浸水
2m～5m未満	1階の軒下まで浸水
1m～2m未満	大人の腰まで浸水
0.5m～1m未満	大人の膝まで浸水
0.5m未満	

この稲荷川洪水ハザードマップの浸水想定区域は、大雨によって稲荷川がはん濫した場合（外水はん濫）、予測される浸水範囲と水深を示したものです。
はん濫予測に用いた雨量の条件は50年に1回程度の大雨（稲荷川流域の1時間雨量63mm）を想定したものです。

凡例

- 避難所
- 水位観測所
- 消防出動
- 消防分団会
- 土のうステーション
- 防災行政無線屋外音声
- 土砂災害警戒区域（急傾斜地）

避難時のポイント

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり異なります。それぞれが自ら判断し、適切な行動をとらなければなりません。



例えば

- 一歩災害の危険がある地域に住んでいる
- 堤防の決壊で家屋崩壊・浸水の危険がある地域に住んでいる
- 子どもや高齢者など家族に要援者がいる

とにかく早期の避難を心がけてください

※土砂災害警戒区域や浸水想定区域内の場合はなるべく避けて、安全な場所へ避難しましょう。

命を守る最低限の行動を

危険な状況のなかでの避難はできるだけ速く、安全の確保を第一に考えます。危険が迫っている場合は、指定された避難所への移動（●水平避難）だけでなく、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。



例えば

- 夜間や急激な降雨で避難場所の危険箇所がわかりにくい
- ひざ上まで浸水している
- 浸水は浅いが、水の流れる速度が速い
- 用水路などの位置が不明で転落のおそれがある

● 垂直避難：屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ一時的に避難し、救助を待つことも検討してください



避難の際は、稲荷川の東側は上町福祉館などへ、西側は鹿兒島玉龍中・高又は大龍小などへ避難してください。